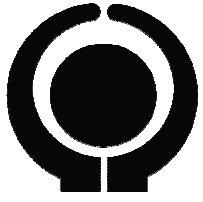


まちから村からの連帯で
ひとりぼっちの高齢者をなくそう



憲法いかし だれもが安心できる国づくりへ

おいでなして

～第27回日本高齢者大会in三重～

大会速報

第2号

2013.9.13

第27回日本高齢者大会

中央・三重県実行委員会

地球を支える

みんなが支える

第1分科会
「今風 井戸端会議」

高齢者大会の「しゃべりの場」：私も私もと、黙っていられない人たちが超満席。リピーターが多く、いま高齢者が元気という証しの分科会でもあります。

「選挙で投票に行かない人は、政治への不満を言う資格がない」（愛知・男性（95））。腹立たしいこと、待って行き場のない怒り、そして楽しいこと満面の仲間たちが、語り合いました。

（年金者組合・津支部 飯田千恵子）



「語り合いましたよ」

高齢者のくらしと人生を：『高齢者いじめ』の政治をくい止めよう」と、1987年から始まった高齢者大会は、その時どきの世の中の動きに感じられたテーマで開かれてきました。



第3分科会
「高齢者の働きがい…」

「86歳の講師の働きがい、生きがい」を聞いたと、定員超の70人余。波乱万丈の人生話に、笑いと涙。「戦争絶対反対です」の言葉に、皆さ



（神田 豊）

くらしや平和、民主主義など、あらゆる面での国のあり方と将来が、大きな岐路に立っている今年は、「憲法いかし」だ

主催者あいさつ

地域に根ざした取り組みを

第27回日本高齢者大会中央実行委員長
全国生活と健康を守る会連合会長

安形 義弘

れもが安心できる国づくりへ」を掲げています。悪政による貧困の広がり、東日本大震災の被災地は、生活と生業の見通

TPP参加、原発再稼働や米軍基地押しつけの根っ子はひとつです。皆さんはこの1年間、悪政に立ち向かい「誰

もが生きがいを持ち、笑顔で暮らせる平和な国」を望んで、色々な活動にがんばってこられたことでしょう。

大会のすばらしさは、多くの経験を持ち寄り、学習・交流し、次の活動につなげ、社会的アピールすることにあります。

2日間の大会を経て、どんな悪政にも負けない地域に根ざした取り組みを広げましょう。（「参加のしおり」から抜粋しました。編集部）

三重学(1) 四日市公害を考える

今なお苦しむ公害患者―濃度はやや薄くなっても、ダイオキシンなど新たな汚染物質は放出され続けています。

こんな中、三重県は、「四日市公害防止計画」の新たな策定を止めました。被害者企業のデータ改ざん、有害物資の不法投棄など、あいついいます。古くなったパイプラインは、南海トラフが問題になって今、たいへん危険な状態にさらされています。

安全性を企業まかせにせず、行政に働きかけ、

大会記念歌決まる 「心ひとつに」

社高齢期運動サポートセンターが募集した「第27回日本高齢者大会記念歌」が決まりました。

応募は、作詞・作曲とも3篇・曲でした。曲名は「心ひとつに」で、作詞・本谷優さん、作曲・笹本芳子さん。

ハ長調、4分の4拍子、1オクターブちよつとの音域で歌いやすい。やさしいリズムでも、シンコー・ジョンの頭（♪）も後半の上向音（ソラシドレ）も、しつかりと。

（峯岡 澄）

交流2「うたえ」

新たな公害防止協定を作らせることが大切です。



「遠くまで届け」と華やいだ歌声。とても高齢者の声とは。

ピアノ、アコーディオン、ギター、ウッドベースにも優る明るい声はほじける。なんと笑顔の美しい集団なのか。ブロック毎のエール交換に大きな連帯の拍手も。

（年金津 飯田）

【訂正】「おいでなし」第1号1面「大会アピール」中、「高齢者権利条約づくりが進んでい」の傍線部分を加筆してください。（宣伝部）

三重学(2)

「原発阻止の運動と歴史」

1963年11月、中部電力が「芦浜ほか三地点の原発立地計画」を発表。リアス式海岸で、「自然豊かで漁業中心の地を守る運動」と「中電との闘い」が4年余り続き、暴行事件まで起こる中、田中知事が「収束宣言」。

1972年に入り、原発立地の新たな動きが始まった。原発反対は、お金との闘いで、町内・友人・親子関係が壊される日々との闘いだった。

1995年、50万署名を始め、96年5月に81万筆署名を提出。2000年2月、「白紙撤回」を表明させる。

1995年、50万署名

祭り

第26回大会では、高松市香川町浅野の「ひょうげ祭り」を紹介しました



「唐人踊り」

を始め、96年5月に81万筆署名を提出。2000年2月、「白紙撤回」を表明させる。

南島町の闘いの歴史を多くの人に知ってもらい声を大きくしていくことが大切だ。

(白井照男)

原発反対はお金との戦い 町内・友人・親子関係が壊される日々

第1講座

広がる貧困・真の社会保障とは

前半の相野谷さんの講義は、現在の社会保障制度の危機と、政府・財界の狙いを話しました。

唐鎌さんは、日頃、大学で学生を前に講義しているだけに、社会保障制度の日本でのルーツや西欧との比較事例を数多く

紹介しながら、笑いの絶えない講義でした。

「日本の社会保障制度には、歴史的に、貧困から国民を救う考えはありません。」

年金、生活保護、医療・介護すべてに、この思

「津の戦跡めぐり」

行程後半、猛暑で遅れて帰着が20分遅れに。

が、企画は好評で、群馬、鹿児島参加者の感想で、高齢の講師への感謝、謝辞が多かった。

石碑の爆撃跡を見ながら、子どもたちに語り伝えていく口調そのままです。説明されると、間髪をいれず、「そうだ、その通り」の歓声と拍手。

想が貫かれていた事実を分野ごとに分かりやすく話しました。

エアコンが定時に止まるのが、不満でしたが、16時半ピタリに終了。

140人が参加。(岐阜民医連)

河村彰英

鮮通信使く多文化共生・国際交流パレード」が11月10日、蓮馨寺と蔵造り通りで、行われます。

三重の祭りと音楽と日本酒

暮らした中の多文化楽しむ

音楽

次は、音楽。伊勢労音が、創立20周年記念に委嘱した混声合唱曲「伊勢志摩」が1980年12



「津の戦跡めぐり」

シンポ「ひとりぼっち」

松阪では現在、赤い羽根共同募金を資金に、社協主催で「宅老所」運動が取り組まれています。

4人以上の高齢者が集まり、地域の公民館や個人宅などで、月に1〜2回開かれます。世話人は地域の有志。

その母体は、趣味の会の延長、近所の仲良しグループ、NPOだったり、さまざまです。

高齢者大会カンパのお願い

高齢者大会カンパは、高齢者運動を発展させ、高齢者大会の経年的な運動強化のために、役立たせます。ぜひ、ご協力お願い致します(財政部)

感想・アンケートも

2日間の感想・ご意見など、「アンケート」をお帰りの際に受付へお届け下さい。今後の大会への参考にさせていただきます。(組織部)

第2分科会

「エルダーの着心地」

「寝たきりにならないためのレクや体操、認知症予防のための脳トレ」の世話人をしていきます。NPOに所属し、ナースの資格を生かしながら。現在、市内180カ所以上の宅老所が生まれています。

今回のシンポを聞き、方向が正しかったこと確信しました。(年金者組合松阪支部 長島秀子)

阜・静岡・愛知・三重。酒造組合も同じで、国税・名古屋局の管轄。

因に、酒蔵元は、岐阜48(68)、静岡30(43)、愛知43(73)、三重39(63)

※()内は20年前の蔵数。三重はほぼ半減。それでも、「三重の酒を楽しむ会」(9月27日)や、第3回伊賀の酒DE女子会(10月5日)などを催しています。

日本酒

三つ目は、日本酒。日高連の東海ブロックは岐

「化粧品も、規制緩和で、厚生省に申請すればその日のうちに許可が下り、現在3000社ほどあり、安全性を消費者が選ぶ時代」

「化粧品は効くものではなく、今の肌を維持するものです」と、自分の肌似合う色や化粧の仕方、まゆ毛の描き方の実演が大好評でした。(井口はま子)

第2号完成0時01分